

巻頭言

中村 宏

東京大学情報基盤センター長

あけましておめでとうございます。

2015 年が幕を開け、2010 年代も後半に入りました。一昨年、2020 年オリンピックが東京で開催されることが決まりました。日本の多くの方にとって、2020 年を具体的に意識する契機になったことと思います。スーパーコンピューティングの分野では、昨年フラグシップ 2020 プロジェクトが開始しました。これは、スーパーコンピュータ「京」の次を担うポスト「京」を 2020 年までに開発することを目指しています。当センターでも、昨年 3 月に運用を終了した T2K 東大の後継機（通称：ポスト T2K）を、筑波大学計算科学研究センターとの共同施設「最先端共同 HPC 基盤施設」へ設置・運用することを目指しております。ポスト T2K としては、30PFLOPS 級のスーパーコンピュータシステムが予定されており、当センターは 2020 年をこのポスト T2K と共に迎えることになるでしょう。

私は昨年センター長に就任したばかりですが、日本全体の計算科学・計算機科学の発展に対し、当センターが果たすべき役割はこれまで以上に大きくなっていると感じています。ポスト T2K は性能面では「京」コンピュータを超え、運用開始はポスト「京」よりも早い予定です。また、ポスト「京」では、利用者サイドに立った開発の推進がうたわれており、システムとアプリケーションを協調的に開発する Co-Design がキーワードになっています。この Co-Design に必要な知見は、最先端のスーパーコンピュータを利活用することで初めて得られるものですから、当センターのポスト T2K は、ポスト「京」の成功へ向けても大きな役割を担うことになるでしょう。

我が国の計算科学・計算機科学の発展を担うべく、教職員一体となって当センターの活動を積極的に推進していく所存です。今後とも皆様方のご支援を賜りますようお願いいたします。